

2019年11月24日

福音書からのメッセージ

するとイエスは、「はっきりしておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。

(ルカによる福音書 23 章 43 節)

本日は降臨節前主日です。そして来週12月1日は、降臨節第1主日となります。教会の暦では新しい年のスタートとして、イエス様のご降誕を待つアドベントを迎えます。つまり今日は、教会では今年最後の主日となります。

その主日に読まれた福音書が、イエス様の十字架の場面です。すでにイエス様は十字架につけられています。民衆は立ってその様子を見つめていました。議員たちにあざ笑われながら、兵士たちに侮辱されながら、イエス様は十字架につけられていました。そのときイエス様は、一人だけで十字架につけられていたのではありませんでした。イエス様の両側には、二人の犯罪人がいました。そしてその二人は、まったく対照的な言葉を、イエス様に対して投げ掛けます。

一人は言います。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ」。しかしもう一人は、たしなめながら、こう言います。「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」。

この二人の姿を見たときに、わたしは最近問題となっている「あおり運転」を思い起こしていました。人は急いでいるときに、周りが見えなくなっていく。自分のことを中心に考えてしまう。横断歩道の前に歩行者が立っていたとしても、止まってくれる車なんてほとんどありません。スピードもゆるめずに、走り去っていきます。そして自分の気に食わないことに出会うと、周りをおおっていく。



わたしたちは普段の生活の中で、あおり運転のような生き方をして

はいないでしょうか。あおり運転、それは自分中心の生き方です。自分が正しい、周りが間違っている。自分のことを優先して、何が問題なのかという生き方です。

イエス様が十字架につけられているのを見たら、あざけり、唾を吐き、首を振りながら去っていく。それは、自分は犯罪者ではない、罪人ではない、十字架とは全く関係のない人間だと思っているからなのです。

二人目の犯罪人は、こう言ってもう一人の犯罪人をたしなめました。「我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ」。わたしたちはどうでしょうか。自分は正しい、間違っていない。その思いが先行していませんか。

わたしたち一人一人もまた、十字架につけられている罪人なのです。この一年を振り返ったときに、わたしたちは何度、周りの人を傷つけ、周りの人の存在を無視し、そして神さまに背いてきたらうかと気づかされます。

一年の最後、わたしたちは自分の姿を振り返っていきましょう。自分はすべてにおいて正しい人間でしょうか。自分の中に罪の心はないでしょうか。

イエス様は、そのようなわたしたちの元に来てくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>